2024 年度環境報告書

すべての人々が人間らしく生きられる、豊かな地球を未来のこどもたちへ

伝統的な文化や産業、みどり豊かな山々、そしてきれいな水にめぐまれたこの福島県をこどもたちや孫たちの世代に伝え残していきたい。美しい会津の風景を守りたい。

脱炭素ストーリー　ふくしまゼロカーボンへの挑戦
Road to 2050-事業所版-

はじめに

気象庁は 2023 年の天候について、 日本の年平均気温および日本近海の平均海面水温は、いずれも統計開始以来、最も高い値になったと発表しました。

世界各地で異常高温が発生したほか、熱波や干ばつ、大規模な洪水、山火事などが多発し、その影響を受けて農作物の不作が深刻化し、食料価格が高騰しました。

日本では 6 月 2～3 日に西日本から東日本の太平洋側で発生した大雨をはじめ、全国各地で記録的な大雨が観測されました。6 月 1 日～7 月 31 日までの間に発生した大雨による被害は、人的被害 93 名、住家被害 2 万 5,262 件に上ります。

背景には数年に一度発生するエルニーニョやラニーニャなどの気候変動現象に加えて、「地球温暖化」による気候変動が大きく関わっていると考えられています。

地球温暖化によって引き起こされる異常気象は、今後もさらに頻発する見込みで、各国は地球温暖化を抑制する脱炭素に向けた取り組みを加速しています。

昨年、ドバイで開催された国連気候変動枠組条約第 28 回締約国会議(COP28)では、エネルギーに関する合意として、化石燃料からの「脱却」が合意文書に含まれ、2030 年までに再生可能エネルギー容量を 3 倍に、省エネ改善率を 2 倍にすることが盛り込まれました。このことで、「脱炭素」への動きが加速されると考えます。

温室効果ガスの排出実質ゼロを目指す「カーボンニュートラル」は、今や世界的な潮流となっています。2050 年など年限を切ったカーボンニュートラル宣言国は、年々増加しており、すでに気候変動対策は、いかに目標を達成するかという実行段階に入っています。

福島県でも、2021 年 3 年 2 月の県議会において、内堀知事が、2050 年までに脱炭素社会の実現を目指す、「福島県 2050 年カーボンニュートラル」を宣言し、それは市町村にも広がり、会津若松市や喜多方市をはじめ、県内の多くの市町村が「2050 年二酸化炭素排出量実質ゼロ」を表明しています。

コープあいづでも、「温室効果ガス削減計画」を作成し、2030 年までに 2013 年度比 46%、2050 年までに 90%削減の目標を掲げ、天井照明のＬＥＤ化や冷凍冷蔵ケースを効率の良いものに変更するなど、省エネの取り組みを進めてきました。

そして、2023 年度は「ふくしまゼロカーボンへの挑戦表彰制度」で最優秀賞を受賞し、「ふくしまゼロカーボンへの挑戦 ーRoad to 2050ー」で、コープあいづの活動が紹介されています。

コープあいづでは、これからも地球温暖化の原因となる温室効果ガス排出削減に向け、組合員さんと一緒になって取り組みを進めていきたいと考えています。

※「ふくしまゼロカーボンへの挑戦 ーRoad to 2050ー」は、福島県の公式 YouTube チャンネルで公開されています。

環境方針

＊＊＊＊＊コープあいづが目指すこと（ビジョン）＊＊＊＊＊

「この地域に生協があってよかった。生協があるから安心して暮らせると喜ばれる
コープあいづを目指します」

環　境　方　針

生活協同組合コープあいづは、「一人は万人のために　万人は一人のために　そして次世代のために」の精神を掲げ、「自立した市民の協同の力で、人間らしいくらしを創造し、持続可能な社会を実現する」という 21 世紀の生協の理念に基づいて、環境問題に取り組みます。

「持続可能な社会」を実現するために、低炭素社会、循環型社会、自然共生社会を目指した事業と活動を行います。

原発に頼らないエネルギー政策や再生可能エネルギーの推進の為、施設や設備の省エネ化や再生可能エネルギーの利用促進を行います。

そして、健全な経営と適正な事業運営を通して、組合員の暮らしに貢献する事業活動や社会的役割を発揮し地域社会との結びつきを強め、地域社会に貢献できる存在を目指しています。

＊＊＊＊＊　方　針　＊＊＊＊＊

生活協同組合コープあいづは、組合員のくらしと地域社会に貢献するために、事業活動における環境負荷の軽減と汚染の予防、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。

法令、条例、その他受入れを決めた要求事項などを遵守します。

１．脱炭素社会に向け、組合員と一緒に取り組みます。

・ CO_2排出総量の総量削減に取り組みます。
・ 再生可能エネルギーの推進・拡大に取り組みます。
・ エネルギーの効率的な使用を行います。

２．持続可能な社会づくりの取り組みを推進します。

・ 廃棄物の削減の為、商品の管理水準を高めて廃棄ロス等を減らすとともに、事業活動から発生する廃棄物の削減、食品ロスの削減に取り組みます。
・ 資源の３Ｒの取り組み、食品リサイクルの向上を行います。

３．組合員と一緒に地域の環境保全活動を推進していきます。

・ ＣＯ・ＯＰ商品や産直商品の利用普及、エシカル消費を組合員と一緒に推進していきます。
・ 暮らしの中の省エネについて、組合員と一緒に推進していきます。

４．私たちは、環境側面に関わる法規制等を順守し、汚染の予防に努めます。全職員及び業務委託先に教育や啓発を行い、環境保全活動を推進していきます。

この環境方針を広く公開し、環境活動の取組み状況について定期的に公表します。

２０２１年５月１７日制定　　生活協同組合コープあいづ　理事長　吉川毅一

2023年度 事業活動による環境負荷

主なINPUT（投入）

■商品　　■工用原材料

■エネルギー、水資源（前年比）

電気・・・・・・・8,124,937kWh（98%）
ガス（LPG）・・・・・65,030m3（102%）
上水道・・・・・・・38,099m3(103%)
灯油・・・・・・・・19,375ℓ(108%)
ガソリン・・・・・・38,452ℓ(161%)
軽油・・・・・・・・108,732ℓ(92%)

■資材（前年比）

レジ袋・・・・・・・3,385kg(108%)
容器包装資材（トレイ・ラップ等）
・・ 85,058kg（82%）
内袋・・・・・・・・ 4,376kg（今回より試算）
ドライアイス・・・52,720kg（103%）
コピー用紙・・・・11,283kg（108%）
新聞チラシ・・・・45,976kg（85%）
POP用紙・・・・・ 4,653kg(79%)
商品案内・・・・・286,220kg(96%)

OUTPUT（排出）

■廃棄物（前年比）

一般廃棄物・・・391,491kg(94%)
産業廃棄物・・・114,820kg(105%)

■大気への排出（前年比）

CO_2・・・・・・・3,088ｔ(96%)
フロン（CO2）・・ 638t(50%)

OUTPUT

INPUT

コープあいづ

商品・サービス
店舗（８店舗）
共同購入センター
燃料スタンド（２ヶ所）、配送センター

For EARTH

RECYCLE

RECYCLE（リサイクル）

■事業活動の中で取り組んでいるもの（前年比）

商品案内・・・・・・・・276,430kg（93%）
共同購入シッパー内袋・・・2,080kg(104%)
食品残さ・・・・・・・・136,575kg(81%)
廃食油・・・・・・・・・ 9,225kg(129%)
新聞・雑誌・・・・・・・ 7,463kg(133%)
ビン・缶・ペット・・・・ 774kg(81%)
ダンボール・・・・・・ 254,094kg(90%)

■組合員のリサイクル活動（前年比）

牛乳パック・・・・・ 8,500kg(101%)
発泡トレー・・・・・ 4,686kg(106%)
透明トレー・・・・・ 2,778kg(114%)
新聞(ｴｺｽﾃ)・・・・・ 2,810kg(108%)
雑誌(ｴｺｽﾃ)・・・・ 11,195kg(117%)
ダンボール(ｴｺｽﾃ)・・ 6,535kg(99%)
ペットボトルキャップ 652kg(152%)

持続可能な社会を目指して

コープあいづは、日本生協連の「SDGs行動宣言」に賛同し、持続可能な社会づくりに取り組みます。

コープあいづは、「一人は万人のために 万人は一人のために　そして次世代のために」の精神を掲げ、「自立した市民の協同の力で、人間らしいくらしを創造し、持続可能な社会を実現する」という21世紀の生協の理念に基づいて、組合員さんと職員が一緒になって、ユニセフの活動や食育の推進、環境に配慮した商品の利用や普及、ピースアクションなどの平和への取り組みを行っています。

ＳＤＧｓの「誰一人取り残さない」という原則は、コープあいづの目指す事でもあります。

ＳＤＧｓの１７の目標を１６９のターゲット実現に向け、コープあいづでも日本生協連の「行動宣言」としてまとめられた７つの取り組みを一緒に進め、ＳＤＧｓの実現に貢献していきます。

□コープＳＤＧｓ行動宣言

1. 持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を見直していきます。
2. 地球温暖化対策を推進し再生可能エネルギーを利用・普及します。
3. 世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動を推進します。
4. 核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動を推進します。
5. ジェンダー平等（男女平等）と多様な人々が共生できる社会づくりを推進します。
6. 誰もが安心してくらし続けられる地域社会づくりに参加します。
7. 健康づくりの取り組みを広げ、福祉事業・助け合い活動を進めます。

コープあいづは、ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）に貢献することを約束（コミット）します。持続可能な社会の実現の為、地球上のみんなが「笑顔」で暮らせる為、日本生協連の「ＳＤＧｓ行動宣言」を実現する為に取り組みを進めていきます。

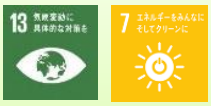
□コープあいづの取り組み

番号	主たる目標と関連する目標	私たちが進めていく課題
1		・エシカル消費を進めます。 ・産直商品を普及拡大していきます。
2		・温室効果ガスの排出量を削減していきます。 ・再生可能エネルギーを積極的に取り入れていきます。

3		・ユニセフ募金に取り組みます。 ・子ども食堂などの支援やフードバンクやフードバンクに取り組みます。
4		・平和の為の戦争展など、平和の大切さを学び継承していく活動に取り組みます。
5		・ジェンダーフリーと多様な人々が共生できる社会の実現に貢献します。
6		・地域の見守り活動や、移動販売を通じて、地域における役割を果たしていきます。
7		・より健康的な食生活を支えていく商品の普及を組合員と一緒に進めていきます。

※ＳＤＧｓとは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称です。ＳＤＧｓは「誰一人取り残さない「No one will be left behind」ことを宣言し、経済、社会、環境をめぐる幅広い課題に、統合的、包括的に全世界で取り組むことを決めたものです。

地球温暖化防止対策の推進



ＣＯ$_2$削減の取り組み

地球温暖化は、極端な気象現象や海面上昇などの影響を引き起こします。これによって、洪水、干ばつ、ハリケーンなどの自然災害が増加し、人々の生活や経済に大きな影響を与えます。

生態系にも大きな影響を与えます。例えば、気温上昇や海洋酸性化によって、多くの生物種が生息できなくなる可能性があります。これは生態系のバランスを崩し、生物多様性の喪失を引き起こすことにつながります。

経済にも大きな影響を与えます。自然災害による被害や農業の影響によって、国や地域の経済活動が停滞する可能性があります。

これらの理由から、地球温暖化防止対策は喫緊の課題とされています。

私たち生活協同組合としても、暮らしを守る立場からも、今後一層の努力が必要になってきます。

生協の取り組み

全国の生協では、2030 年に温室効果ガスを 2013 年度比で 40%削減することを目指しています。2022 年度の全国生協の温室効果ガス排出総量は 69 万 6,245 トンとなり、2013 年度比 32%まで削減できています。供給高（売上高）1 億円あたりの CO2 排出量では、49%の削減となっています。

＊2023 年度の実績は集計中。

コープあいづの温室効果ガス削減目標

温室効果ガスの排出量を、2030 年までに 2013 年比 43%以上削減する。
2050 年までに 90%以上削減する。

コープあいづでは、「温室効果ガス削減計画」を作成し、2030 年までに 2013 年度比 43%、2050 年までに 90%削減の目標を掲げ、天井照明のＬＥＤ化や冷凍冷蔵ケースを効率の良いものに変更するなど、省エネの取り組みを進めてきています。

これまでも、省エネによる温室効果ガス削減に取り組んできましたが、大きな削減とはなっていません。高い目標を達成するためには、温室効果ガスの約 87%を占める電気での削減が鍵となります。

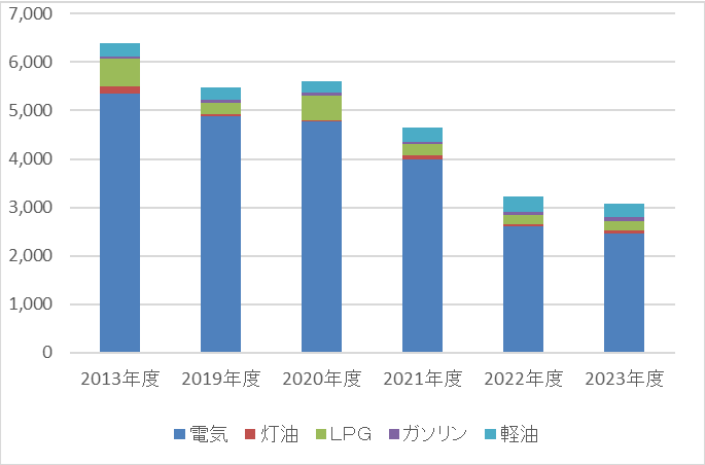
目標を達成するために、コープあいづでは全ての事業所の電気（看板などの定額の電気を除く）を地元の会津エナジー様より調達しています。会津エナジー様では、会津産の自然エネルギーによる地産地消を目指して電力の販売事業を展開されています。2023 年度は、ＦＩＴ電気（自然エネルギー）がほぼ 100%となっており、コープあいづ全体の温室効果ガス排出量は、かなり低く抑えられています

国や福島県が宣言している「カーボンニュートラル」実現に向け、更に努力をしていきます。

CO_2の総量削減に取り組んでいます。

～昨年より約 128t削減できました～

削減率は、前年比 96.0%削減、2013 年度対比 48.3%の削減となり、2030 年度末目標を前倒しで達成しています！



CO_2 の発生源をエネルギー別でみると、ほとんどが電気によるものとなっています（全体の約 80%）。次に宅配事業による軽油の使用、主に店舗で使用するＬＰＧの順となり、それらで全体の約 96%を占めています。CO_2 削減では、そのエネルギーを減らすことが必要となります。

2023 年度のコープあいづが事業より排出している温室効果ガスの量は、約 3,088t-CO_2 となり、前年度対比約 96%、2013 年度対比 48.3%となりました。

主な取り組みでは、店舗のでの省エネ営業による天井照明や冷凍冷蔵ケースの照明の消灯や、空調機の室外機を冷却噴霧装置を、手動式からデマンド装置を活用した自動式に変更したことで、運用が確実にできたことなどが削減につながったと思われます。

進んでいないところは、宅配事業の車両燃料の削減です。配送コースの効率化や省エネ運転の実施な

どの対策を取っていますが、事業拡大により軽油の使用量が増加します。車両のＥＶ化などの対策は効果的ではありますが、価格面や性能面でまだ実用的ではないと判断しています。

	2013年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	前年比	
電気	5,353	4,882	4,768	3,992	2,608	2,470	−138	95%
灯油	140	34	34	86	45	48	4	108%
ＬＰＧ	571	249	506	224	192	195	3	102%
ガソリン	58	53	53	46	60	90	29	149%
軽油	274	256	252	299	311	285	−26	92%
ＣＯ2排出量	6,396	5,475	5,613	4,648	3,216	3,088	−128	96.0%
2013年度比		85.6%	87.8%	72.7%	50.3%	48.3%		

令和5年度ふくしまゼロカーボンへの挑戦表彰制度（事業所版）にて最優秀賞を受賞

「ふくしまゼロカーボンへの挑戦表彰制度」事業（事業所版）は、福島県２０５０年カーボンニュートラルの実現に向けて、県内のモデルとなるような地球温暖化対策の取組を表彰し、表彰された事業所をけん引役として、県内すべての事業所における地球温暖化対策の取組の推進を図る事業です。

コープあいづでは、毎年この取り組みに参加しており、2022 年度はオフィス部門で優秀賞をいただきました。

2023 年度は、上級編に取り組み、最優秀賞を頂くことができ、内堀知事より表彰していただきました。

審査は、気候変動に対する「緩和策」と「適応策」、プラスチック削減の取り組み、食品ロス、社会貢献などの取り組みなどが審査され、以下の点が評価されました。

- 緩和策：ＣＯ2 削減が大きく評価されました。
- 適応策　：コープ東北のＢＣＰマニュアルの運用を行っています。
- プラスチック削減　：レジ袋をバイオマスプラ 100%にしている事が大きく評価されました。
- 食品ロス：フードバンクの取り組みや手前どりなど、県と一緒に活動したことなどが大きく評価されました。
- 社会貢献活動：環境委員会による清掃活動、鶴ヶ城マラソンの前の清掃活動などが評価されました。

「カーボンニュートラル普及啓発動画」を作成いただきました

福島県は、カーボンニュートラルを推進するための啓発動画として、「ふくしまゼロカーボンへの挑戦表彰制度」で表彰された企業の取り組みを紹介するものを作成されました。

コープあいづは、ふくしまゼロカーボン宣言事業（事業所版）　の上級編で最優秀賞を受賞したことか

ら、古坂大魔王さんとふくしまゼロカーボン宣言事業（学校版）で最優秀賞を受賞したあさか開成高校の生徒さんがお店を見学しながら取り組みを紹介する動画を作成していただきました。

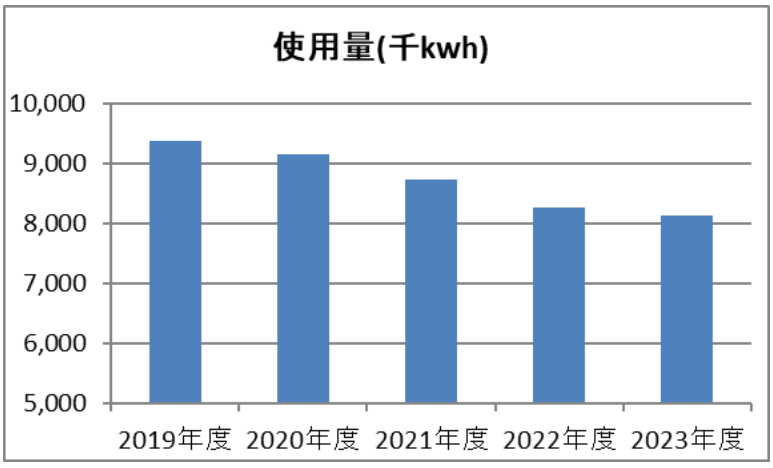
内堀知事からは「コープあいづさんでは、再生可能エネルギーへの切り替えを含め、幅広い活動をされていますね。フードバンクの取り組みなど、お互いを支え合う施策って非常に重要なのと、かつそれが結果的にカーボンニュートラル、ＳＤＧｓ に繋がると思いますので、これからもできることをひとつひとつコープあいづさんで取り組んでいってただければと思います。」と評価いただいています。

現在、YouTubeの福島県公式チャンネルで公開されています。ぜひご覧になってみてください。　ttps://www.youtube.com/user/preffukushima

省エネルギーの取り組み

電気使用量の削減に取り組んでいます　～昨年より約 2％削減できました～

コープあいづの電気の使用で、一番多くを占めるのがお店の冷ケースによるものです。次に空調機の順となっています。照明はＬＥＤ照明に変更しているため、比率は多くないと考えています。



2023 年度は、猛暑に対する省エネ対策や、電力の高騰に対する経費削減の取組として、店舗の天井照明を約５割消しての営業や青果や日配などの冷蔵多段ケースの照明を消灯するなどの対策を行い、省エネができています。

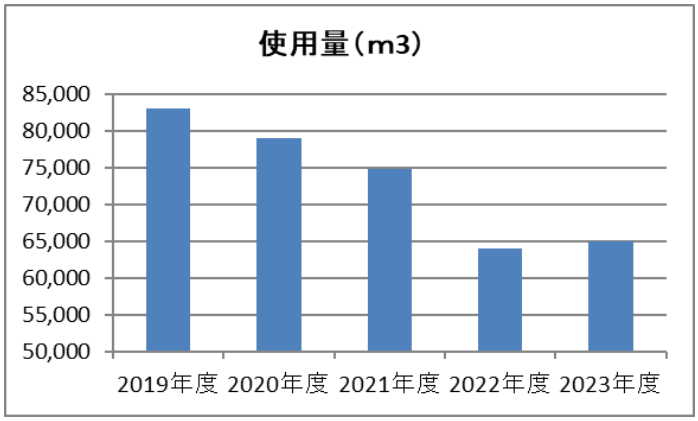
また、店舗の省エネ対策として、ファイナルゲート社によるエネルギー効率最適化として、空調機や冷ケースの室外機の洗浄、冷ケースの設定温度の適正化、不要な冷却の停止などを行うことでで電気使用量の削減が進みました。

今後は、古くて冷蔵効率が良くない冷凍冷蔵ケースの入れ替えなどを計画的に進めるなど、更に省エネをすすめていきます。

LPガス使用量の削減に取り組んでいます　～昨年より約 2％増加しました～

ＬＰガスは、３店舗の空調機での使用と５店舗の厨房で使用しているガス式フライヤー、ひがし店のスロープの凍結防止ヒーターでの使用によるものが殆どを占めます。その中でも、空調機の使用によるものが多くを占めています。

2023 年度は、ガスヒーポンを使用している３店舗でエネルギー効率の最適化を行い、室外機の定期的な清掃などの省エネを図りました。



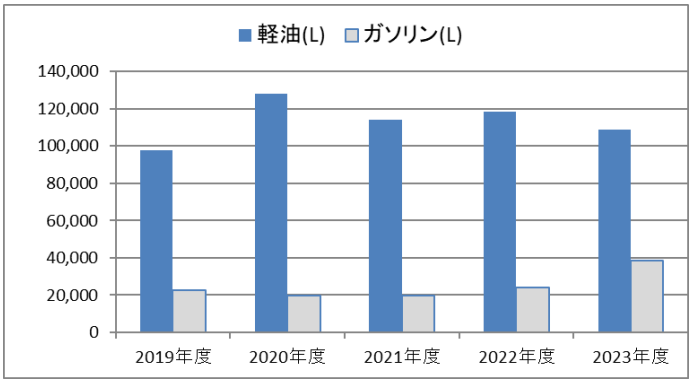
しかし、ひがし店ではＢ棟の２階のＧＨＰの使用が増えたこと、スロープの凍結防止ヒーターの使用が増えたことから、全体で 2%の増加となりました。

車両燃料使用抑制に取り組んでいますが、事業拡大により増加しています

～昨年より軽油使用量は約 5%の削減、ガソリン使用量は約 61％の増加でした～

燃料の使用で、一番多いのは宅配事業で使用するトラックの軽油です。また、移動販売車両によるトラックの軽油使用量も増えてきています。

2023 年度は、事業拡大はしましたが、軽油の使用量は前年より削減ができました。安全運転支援アラート機能がついたドライブレコーダーを使用することで、安全運転とエコドライブに効果があったものと考えます。



ガソリンの使用では、新型コロナウイルス感染症の位置づけが代わったことで、営業活動が活発になり、使用量は多くなりました。

運輸部門のエネルギー削減では、自動車のＥＶ化も必要な事ですが、小型のＥＶトラックの開発はこれからの課題となっており、価格面や使い勝手などからもすぐに導入する事は難しいと考えています。

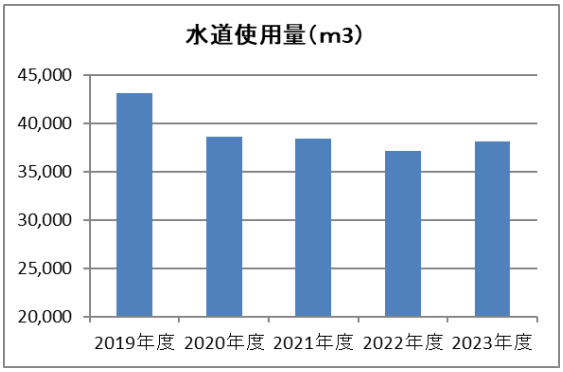
車両燃料は事業を行う上で欠かせませんが、今後も営業実績も上げながら、省エネ運転に心がけることにより、使用抑制に努めていきます。

水道使用量の削減に取り組んでいます　～前年より 3％の増加でした～

水道使用の殆どが、店舗での商品加工やトイレでの使用です。

商品加工やトイレの使用は、削減することが難しいのですが、商品加工を行うバックヤードの蛇口には、節水コマを使用しており、節水に心掛けています。

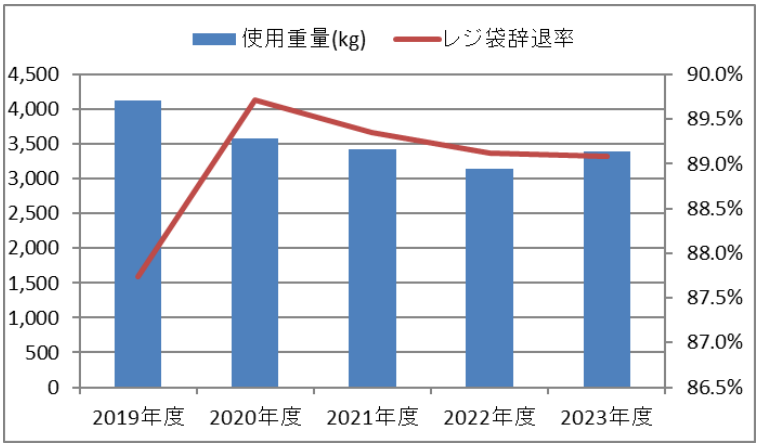
また、毎月の使用量を点検し、無駄な使用実態がないか調査したり、冬期間の水道管の破損などによる水漏れの早期発見に心掛けています。



レジ袋削減に取り組んでいます　～レジ袋の辞退率は 89.1％、約 411 万枚の節約～

レジ袋の辞退率は、約 89.1％で、前年度と同じ実績となりました。90％近い辞退率で推移しており、多くの組合員さんに協力いただいています。

また、そのことによる削減効果は約411万枚の削減となり、削減重量は約 28ｔ、原油換算で34kl、CO_2換算では約14ｔもの削減効果となります。



レジ袋の削減は、ごみ減量や地球温暖化対策だけではなく、無駄なものを使わない心や考え方を持つことによって、暮らしの見直し活動の取り組みのひとつであると考えています。その推進の為、「レジ袋の無料配布中止」や「マイバッグ持参運動」を進めています。

会津若松市とは、「レジ袋削減に関する協定」を締結し一緒に削減の活動を進めています。

福島県とは、「マイバッグ推進デー協力店」に登録し、店内放送によって、マイバッグ持参を呼び掛けています。

また、使用しているよりレジ袋の材質は、バイオマス素材のものに変更し、石油資源の削減にも貢献しています。

ゴミ袋として使用されている方もあり、辞退率を 100％とすることは簡単ではないと思いますが、引き続き店内放送などを通じ、マイバッグの使用を呼び掛けてきます。

持続可能な生産と消費の為に

資源の使用量抑制に取り組んでいます

コープあいづでは事業活動を通して、多くのプラスチック製容器包装や宅配のカタログなどの紙をたくさん使用します。事業拡大により、その使用量は増加していきます。しかし、地球上の資源には限りがあります。

持続可能な社会に向けては、限りある資源を有効活用し、できるだけ使用量の抑制ができるよう取り組んでいく事、循環型社会を作っていく事が必要です。

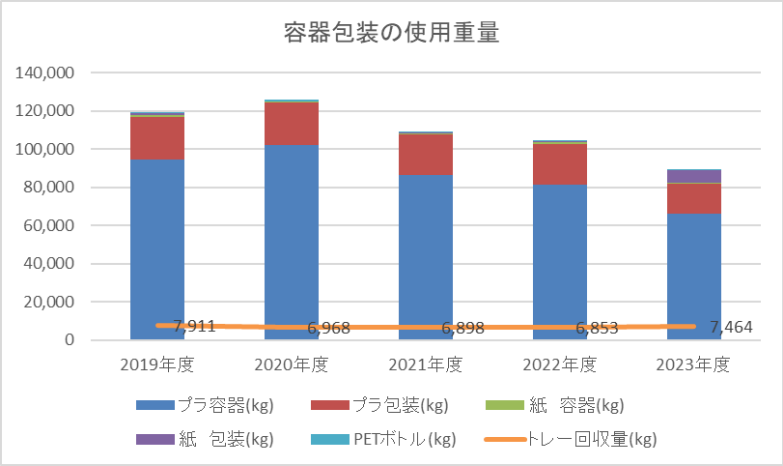
循環型社会を実現するためには，無駄なものは作らない（買わない）、作った（買った）ものは長く使う、ごみになってしまったものはリサイクルして資源を有効に利用する、ということが大切です。

コープあいづでは、リデュース（Reduce）＝出すごみの総量を減らすこと、リユース（Reuse）＝再利用すること、リサイクル（Recycle）＝再生産に回すこと。この３Ｒをすすめ、資源の使用量を減らす努力をしていきます。

容器包装の使用量の抑制に取り組んでいます　～前年より 17％削減しました～

生協の店舗では、トレーやラップなどの容器包装を多く使用しています。商品を安全に衛生的に販売するためには、容器包装を使用しないわけにはいきません。

しかし、容器包装のほとんどが化石燃料から作られており、資源の有効活用や温室効果ガス排出量の削減のためには、使用量を少しでも減らしたり、店頭での回収を行う事が必要だと考えています。



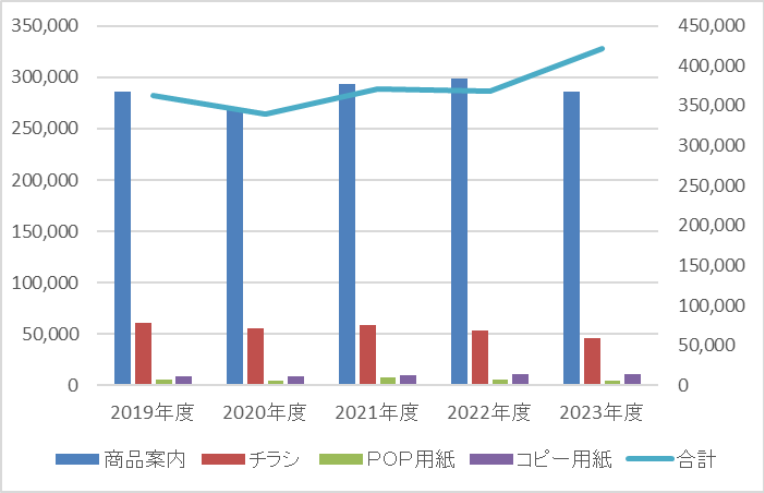
2023 年度は、全体で約 17%の重量削減ができました。特にプラスチック包装での削減が大きく進みました。

容器包装の使用は、事業拡大により増加するものでもあるため、できるだけ多くの食品トレーを回収するよう努力しています。店舗のバックヤードや休憩室から出される容器包装に関しても、回収ボックスに入れるように教育を行っています。

2023 年度の回収重量は 7,464kg となっており、昨年度より約 9%多い回収重量となりました。

紙類の使用量の抑制に取り組んでいます　～前年より 14%増加となりました～

紙類の使用量で、一番多い物は宅配事業で配布している商品案内で、年間約 286ｔにもなります。組合員拡大や事業拡大によって増加するもので、前年度より約 20%増えました。商品案内は事業活動には欠かせない物であり減らすことは難しいのですが、配達時に回収しており、すべてリサイクルに回しています。



次に多い物は新聞折り込みチラシで年間約 46ｔもの紙を使用します。2023 年度は、新聞の発行枚数も減っている事もあり、前年度より 15%の削減となりました。

それ以外で多いものは、事務所で使用するコピー用紙で年間約 11ｔにもなります。このような用紙は、事業所にある分別ボックスで保管し、リサイクルに回しています。個人情報や経理情報が載っているものも専用の業者の方に回収頂き、リサイクルに回しています。

また、お店のポップ用紙も多く使用しており、年間約 5ｔにもなります。こちらに関しては、2023 年より荒川産業様が回収し古紙回収業者に持ち込みリサイクルしており、「フクメグリ」という名のトイレットペーパーに再生され、コープあいづの店舗で販売しています。

リサイクル推進の取り組み

持続可能な循環型社会を目指して、組合員さんと一緒にリサイクル活動の推進を行っています。

紙パックの回収に取り組んでいます　～8,500kg の回収を行いました～

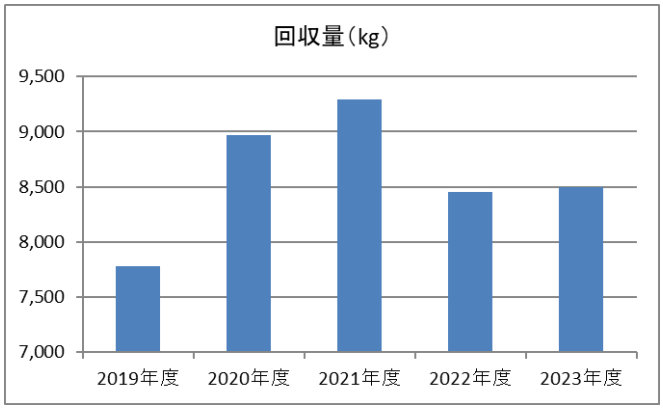
牛乳パックなどの紙パック回収は、1990 年より組合員さんが主体的に取り組む事から始まり、現在では各店舗のリサイクルボックスや宅配のトラックで回収しています。

組合員さんが回収ボックスに入れていただいた紙パックは、店長などが古紙問屋に持ち込んでいますが、にいでら店や宅配事業で回

収された牛乳パックは、会津若松市内にある共同作業所に無償でお渡ししており、共同作業所の運営資金として活用されています。

2023 年度は、8,500kg（前年比約 101%）の牛乳パックを回収しました。昨年度より 46kg 多くなりました。

※2023 年度の回収では、牛乳パック換算で 242,760 枚の回収ができました。これは、コアノンロールにすると 40,460 個にもなります。



食品トレーの回収に取り組んでいます　～7,464kg の回収を行いました～

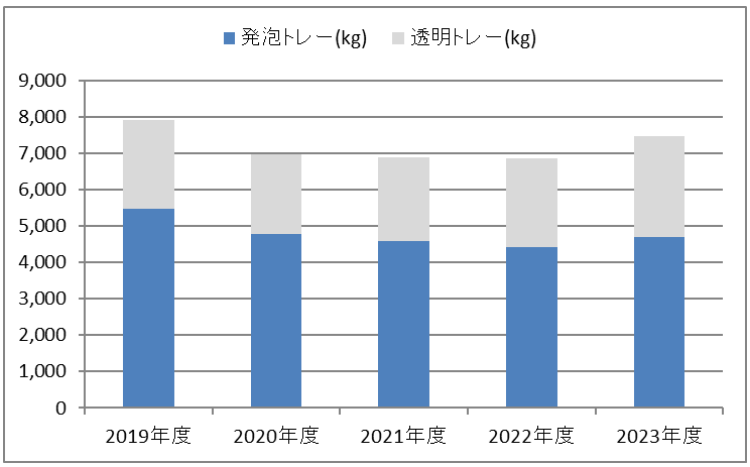
コープあいづでは、発泡トレーと透明トレーの 2 種類の回収を行っており、組合員さんにご協力頂いています。

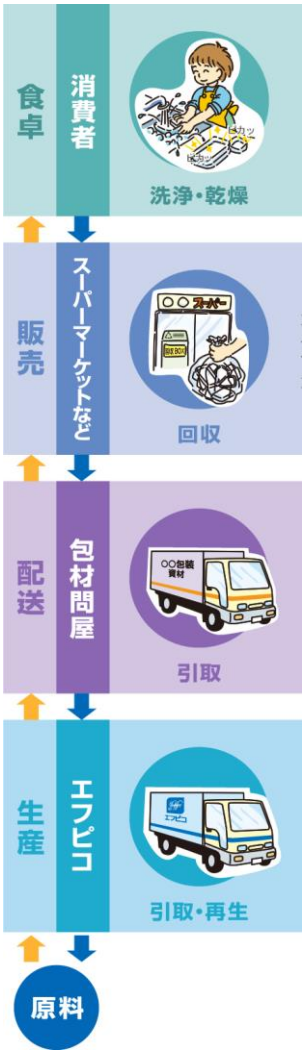
2023 年度の回収実績は、発泡トレー4,686kg（前年比約 106%）と透明トレー2,778kg（前年比約 114%）の回収を行い、合計 7,464kg（前年比 109%）となりました。ここ数年、回収量が減ってきていましたが、広報紙で回収を呼び掛けるなどの取り組みを行うことや、店舗の休憩室やバックヤードで使用されるトレーのリサイクルを徹底するなど、回収量が増えています。

回収は、コープあいづ、容器包装問屋さん、メーカーさんが協力し合い、納品するトラックの帰り便で回収を行うことで、回収するトラックの燃料に使用を抑え、お互いに効率のより回収を行っています。

回収された発泡トレーは、主に発泡トレーの原材料としてリサイクルされます。透明トレーは、それぞれの素材に分別され、再生トレーの原材料などに活用されます。

そして、コープあいづでは、回収されたトレーなどでリサイクルされた再生トレーを積極的に使用し、石油資源の節約や CO_2 排出量の削減につなげていま





す。

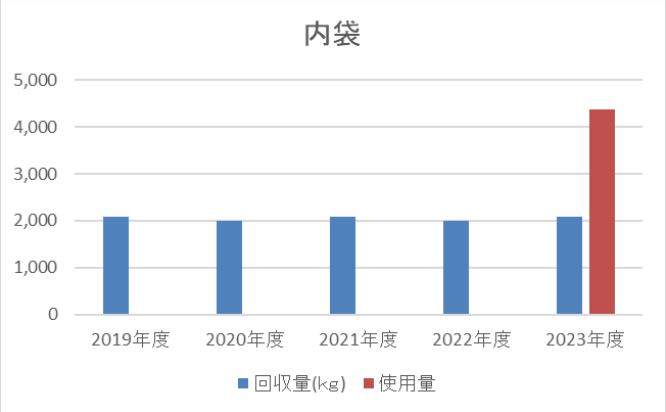
宅配事業で使用するシッパーの内袋を回収しています
～2,080kg の回収を行いました（回収率 47.5％）～

宅配事業で使用する保冷容器には、商品を保護するために薄いシートを内側に使用しています。１枚一枚は軽いものですが、年間で 4,376kg も使用しています。この材料は石油から作られるプラスチックで、貴重な資源です。

コープあいづでは、回収を行っており、2023 年度は 2,080kg の回収ができました。

回収された内袋は、会津若松市内のリサイクル工場でＲＰＦ（Refuse Paper & Plastic Fuel）化し、製紙会社や発電所などで使う固形燃料として利用されます。

＊使用量は、コープ東北で使用している量を、供給按分して試算しています。

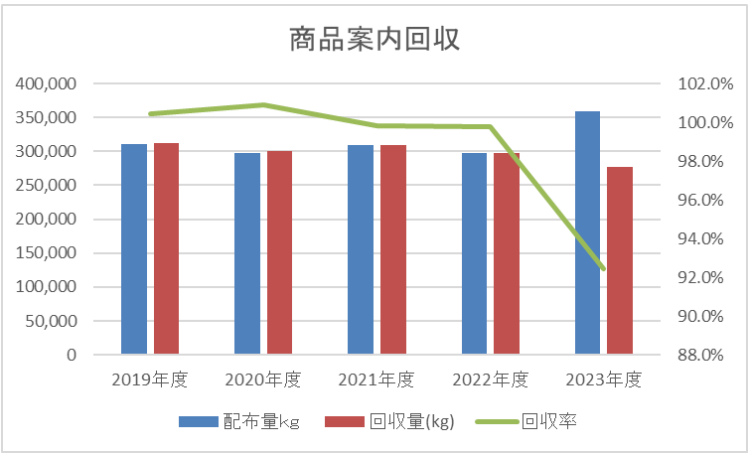


商品案内の回収に取り組んでいます　～298,240kg の回収を行いました～

コープあいづにおける紙の使用量で、一番多くを占めるのが宅配事業で組合員に配布する商品案内（カタログ）となります。

2023 年度は 359,041kg（前年比約 120％）の商品案内（チラシやニュースなどを含む）を配布し、296,430kg（前年比約 93％）の回収を行い、リサイクルを行いました。

リサイクル率は約 92％となり、ほぼリサイクルされています。

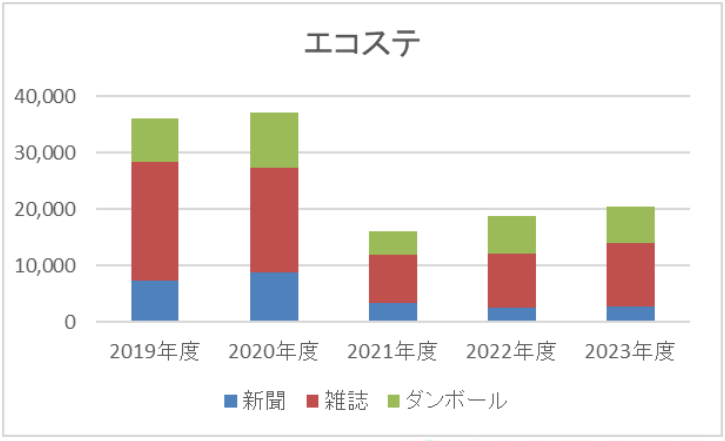


宅配事業は、毎週組合員宅にお邪魔するため、その際に物流容器などと一緒に回収できるので、効率よくリサイクルができます。

ただし、カタログでは、食品だけでなく雑貨や日用品、衣料品など、幅広い品ぞろえをするため、配布重量が増えてしまいます。今後は不要なカタログはＤＸなどを活用して配布を中止したりすることも含め、無駄な配布を抑制する取り組みも行っていきます。

＊回収率は 100％を超えている年がありますが、担当者ニュースの発行など、一部重量把握ができていないためです。

エコ・ステ（古紙の回収ステーション） ～18,740kg の回収を行いました～



2011 年度から、ぷらざ店の駐車場で始まった「エコ・ステ」は、たいへん多くの組合員さんにご利用いただいています。

冬期間は雪の為に休止していますが、2023 年度は雑誌 2,810kg（前年比約 108%）、新聞 11,195kg（前年比約 117%）、ダンボール 6,535kg（前年比約 99%）、合計で 20,540kg（前年比 110%）の回収となりました。

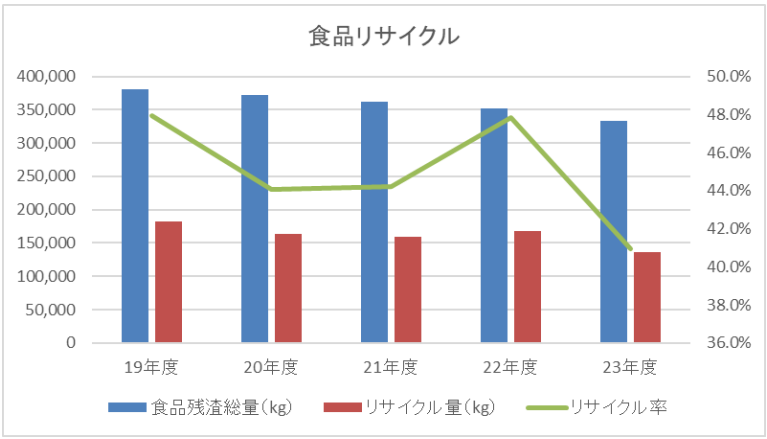
2021 年度は、ポイント制はなくなったことから回収量が減っていますが、今年度は回収量が増えてきています。ただし、ポイント制の頃の実績には戻ってきていません。

回収に対する要望は高いと考え、今後は他の店舗での設置も検討していきます。

廃棄物削減の取り組み

コープあいづから排出される廃棄物で、一番重量が多い物は事業系一般廃棄物で 391,491kg（前年比約 94%）となっています。中でも、食品廃棄物は 196,814kg（前年比約 96%）と多くを占めています。

食品リサイクル ～リサイクル率は 41.5%となっています～



食品リサイクル法では、食品関連事業者に事業系食品廃棄物等の発生抑制が求められており、2024 年度（令和 6 年度）までに業種全体、食品小売業は 60%を達成するよう目標が設定されています。

コープあいづでもその目標を達成できるよう、各店舗でリサイクル率の目標をもって取り組んでいます。

2023 年度は、食品残渣総量は 352,081kg（前年比約 97%）、そのうち 168,458kg（前年比約 105%）をリサイクルしており、リサイクル率は 47.8%となっており、前年より 3.6%高くなりました。

しかしながら、業種目標の 60%に達しておらず、目標が達成できるよう、分別を徹底していきたいと思います。

＜コープあいづで行っている食品残差のリサイクル＞

＊店舗から排出され食品残さは、会津若松市の荒川産業のリサイクル工場で堆肥化され、店舗で販売している土壌改良剤「エコまる」になって、組合員さんの家庭菜園などに利用されています。また、産直農家さんにも利用いただき、リサイクルの輪ができています。

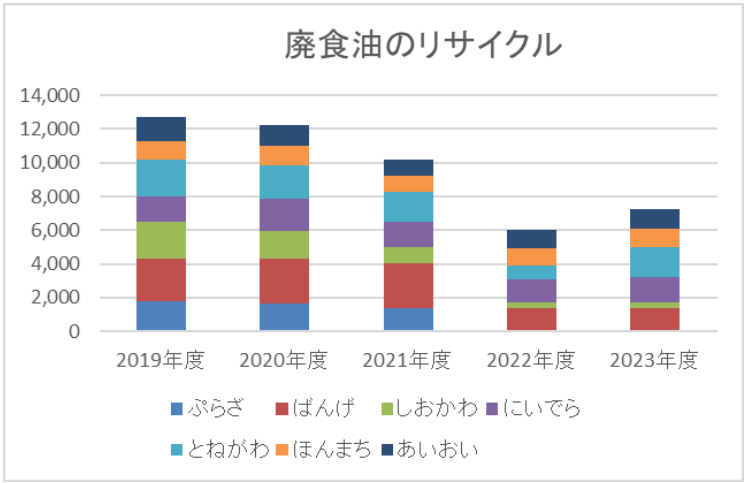
できるだけ多くの方にご利用いただきたいと思っています。

廃食油のリサイクル　～8,352kg のリサイクルができました～

店舗の総菜部門などでは、毎日大量の食用油を使用しています。コープあいづでは、使い終わった廃食油はすべてリサイクルしています。

ひがし店・ぷらざ店・しおかわ店から排出された廃食油は、山形市にある「あやめサービス」で回収され、飼料として活用されています。

にいでら店・ほんまち店・あいおい店・とねがわ店・ばんげ店は、会津美里町にある「ピーターパン共同作業所」で回収いただき、バイオディーゼル燃料（ＢＤＦ）としてリサイクルされ、会津若松市内で走る市内循環バスの燃料等に活用されています。



2023 年度は、ピーターパン共同作業所で 6,930ℓ（前年度比約 121%）、あやめサービスで 2,295ℓ（前年度比約 161%）の廃食油のリサイクルができました。

ピーターパンでのリサイクル　ＢＤＦづくり

環境に配慮した商品の利用普及

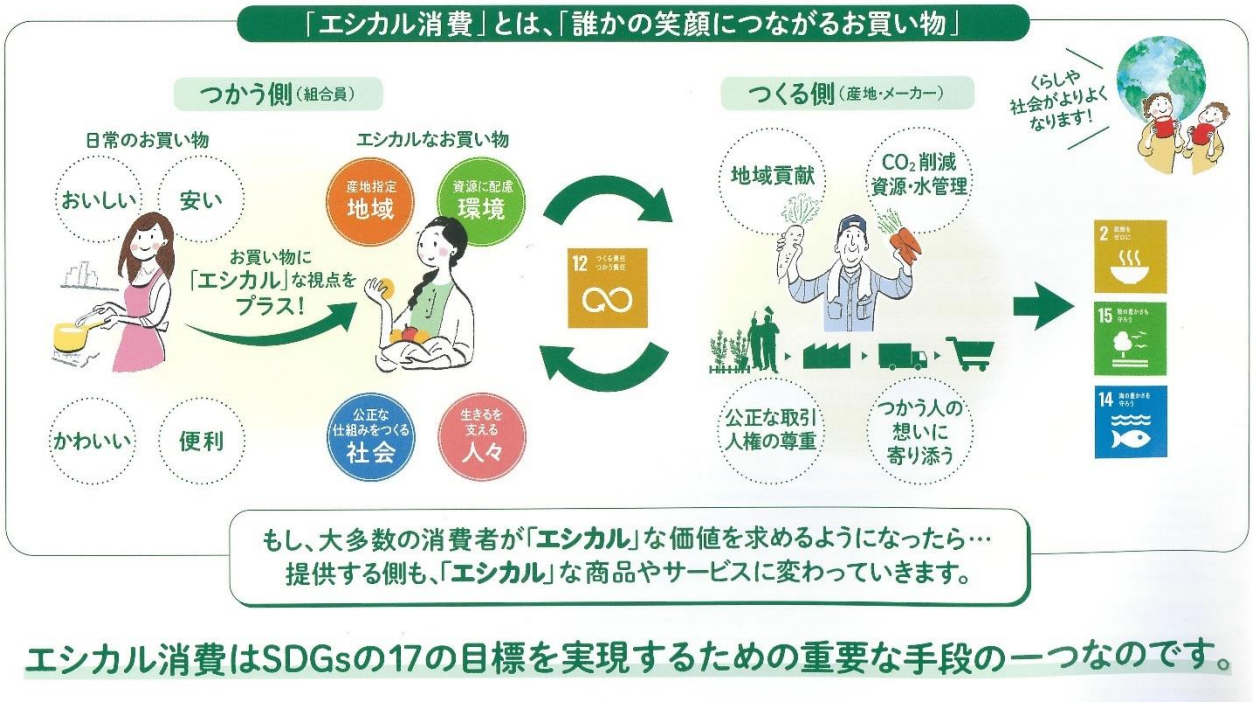
コープあいづでは、多くの商品を組合員に提供しています。その商品は、原材料から加工、流通、販売、消費、廃棄のところで、様々な環境影響を与えています。

今日では、日常生活に起因する環境への負荷が増大しており、経済社会システムにおける物質の循環を図るためには、大量消費・大量廃棄型のライフスタイルを改善していくことが不可欠です。そして、消費段階において、環境への負荷の少ない製品やサービスの選択、過剰包装の辞退など、環境への負荷が低減されるような消費行動が求められます。

原材料を確保するために森林資源がなくなっていないか、農園で働く人の健康に配慮しているか、児童労働はないだろうか、製造や流通でエネルギーの無駄な消費はないか、廃棄するときにゴミが増えたりしないかなど、サプライチェーンにまでさかのぼって環境に配慮しているか考えられた環境にやさしい商品を利用していただくことで、少しでも環境負荷を減らし、持続可能な社会づくりに貢献したいと考えています。

エシカル消費、誰かの笑顔につながるお買物

生協では、「地域」「環境」「社会」「人々」に配慮してモノやサービスを買うスマートでエシカルなお買い物を応援しています。



日本生協連発行「コープのエシカル」より抜粋

＜海のエシカル：海の恵みを未来に残す＞

世界の水産資源の現状は、約 35%が過剰利用、約 60%がこれ以上漁獲を増やせない状態です。今後、水産物需要は、人口の増加、健康志向などにより増加すると予測されており、水産資源の減少が加速する可能性があります。

水産資源を守るには、魚を取りすぎないようにルールを定め、しっかり守る事、海の環境を傷つけないようにすることが大事です。

生協では、持続可能な漁業を推奨する団体が認証した海のエコラベルと言われる「ＭＳＣ認証」や「ＡＳＣ認証」の商品の利用普及を行っています。

＜森のエシカル：森の恵みを未来に残す＞

森林破壊、気候変動、生物多様性

ほぼ 100 年の間に人類は森林を急速に開発し、世界中で多くの森が失われてしまいました。森林を保全しながら、森からの恵みを持続可能な形で利用できる社会を目指すことが大切です。このことは人間同様に森からの恵みを得ている生物たちの多様性を守り、ひいては地球温暖化などによる気候変動を抑えることにもつながっています。

森を守るためには、森林に手を加え、植林や自然林の保護などを行い、適切な管理が必要です。貴重な紙資源を再利用する事が必要です。適切に管理された木材や再生紙で作られた製品を選ぶことが必要です。

＜レインフォレスト・アライアンス認証：森林の自然を守り働く人を応援＞

レインフォレスト・アライアンス認証は、より持続可能な農業に取り組む認証農園産の原料やその製品であることを意味します。人と自然にとって、よりよい未来を推進する方法で栽培されたことを意味するマークです。

レインフォレスト・アライアンス認証の商品を利用することで、それが結果的に収量と収入の増加につながり、農家、家族、地域社会を支えることになります。

コープ商品では、コーヒーやカカオ 70%チョコレートなどにマークがついています。

＜ＲＳＰＯ認証のパーム油：私たちの生活を支えるパーム油の持続可能な調達を応援＞

パーム油は熱帯で育つアブラヤシという植物から採れる油で、日本で使われる植物油の 1/4 を占めるといわれています。マーガリンや即席麺、チョコレートなどの食品や石けん、洗剤、化粧品など幅広く利用されています。

パーム油が採れるアブラヤシ農園を広げるために、森を焼いたり木を伐採するケースがあります。それにより、野生生物の減少、温室効果ガスの排出や森を利用する人々との争

いが起きています。また、強制労働や児童労働などの問題も発生しています。これらの問題を解決するために発足されたのがＲＳＰＯです。

コープ商品では、洗剤ではセフターENERGY やセフターＥなど、食品にも多く使われています。また、麺フライ油、揚げ油にＲＳＰＯ認証パーム油を使用しています。（COOP ヌードルの揚げ油、マーガリンの油等）

＜寄付金付き商品：ふだんのお買物で身近なエシカル消費＞

コープ商品には、対象商品を買うと売上金の一部が寄付される「寄付金付き商品」の取り組みがあります。商品を選ぶ際に「おいしい、安い、手軽…」にプラスして、「誰かの笑顔」を思い浮かべて買い物をしてみませんか？

◇CO･OP×レッドカップキャンペーン

飢餓に苦しむ子どもたちに、学校給食を届けるため、国連ＷＦＰ協会を通じて寄付をするキャンペーンです。

世界では、最大 8 億 2800 万人、10 人に 1 人が飢餓に苦しんでいます。

コープヌードルやカップスープなどの対象商品をキャンペーン期間中にご購入いただくと、１品につき１円を国連ＷＦＰに寄付され、学校給食を届けるために使われます。

2023 年から始まった第４期は、引き続きミャンマー連邦共和国を支援します。※2021 年 2 月の軍事政権発足後、政治的社会的に複雑な問題に直面しており、食糧不足が深刻化しています。

昨年度全国の生協による募金総額は約 640 万円でした。

◇コアノンスマイルスクールプロジェクト

「CO・OP コアノンロール」シリーズを 1 パックご購入いただくごとに 1 円がユニセフを通じて学校づくりなど、楽しく学べる環境づくりに役立てられます。

アフリカのアンゴラ共和国に寄付されています。※アンゴラでは、５人に１人の子どもが教育を受けていません。

昨年度、全国の生協による第 13 期の募金総額は、約 1,520 万円でした。

◇障害者ノルディックスキー応援キャンペーン

COOP 応援食クッキー１品につき１円を特定非営利活動法人日本障害者スキー連盟ノルディックスキーチームの次世代を担うジュニアチームに寄付しています。

一昨年度、全国の生協による募金額は約 60 万円でした。

◇ピンクリボン運動

コープの化粧品やブラジャー１点につき１円を、認定 NPO 法人 J.POSH（日本乳がんピンクリボン運動）の「ピンクリボン運動」に寄付しています。

昨年度、全国の生協による募金額は約 153 万円でした。

◇ブラックタイガー養殖業改善協力金

「エビ養殖業改善プログラム」に対し、コープのブラックタイガーを使用した商品の購入を通じて寄付する取り組みです。

一昨年度、全国の生協での協力金総額は約 681 万円となっています

＜プラスチックのエシカル：プラスチック使用量の削減＞

未来のために「便利」のその先を考える

プラスチックの「その後」が今、大きな課題となっています。私たちの生活になくてはならないプラスチックとどう向き合うのか。コープ商品はできることから取り組みを始めています。

□プラスチックの環境問題

・ プラスチックゴミが流出すると・・・海洋生物や生態系への影響があります。
・ 焼却すると・・地球温暖化への影響があります。
・ 石油から作り続けると・・・化石燃料の枯渇につながります。

1．生協で回収したペットボトルを包材の再生プラスチックの一部に使用しています。

・ 2023 年 3 月より、レトルトビーフカレーの包材の一部に生協で回収したＰＥＴボトルをリサイクルしたフィルムを使用しています。
・ 今後、ペットボトルから再生したフィルムを使用している包材全体へと拡大していきます。

2．植物由来のプラスチックを一部利用しています。

・ トンカツなどの軟包材の一部を、植物由来のプラスチックに替えました。
・ 植物由来のプラスチックは、原料作物の生育過程でCO_2を吸収していますので、CO_2の削増加を抑制できます。
・ 年間約 6.5t の石油由来プラスチックを削減。（2023.1.21～2024.1.20）

3．容器包装の形状を変えるなどで、プラスチック使用量を減らしています。

・ 包材を「省く」（袋内のトレイをなくす）「小さくする」「薄くする」ことで使用量を削減します。

※こちらもご覧になってください。

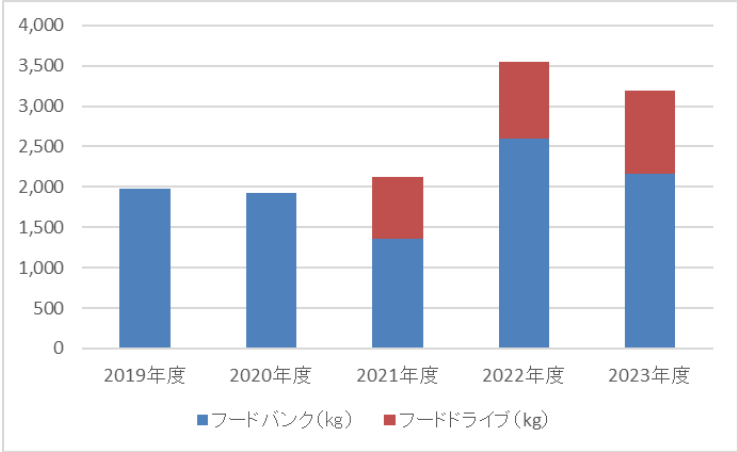
世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動

「誰一人取り残さない世界」をめざして、世界が抱える飢餓や貧困問題についての理解を深め、助け合いの精神で、ユニセフ募金などに取り組み、世界の子どもたちを支援します。
また、「貧困」の連鎖をなくしていくために、子どもの貧困について学び、子ども食堂やフードバンク・フードドライブなどの取り組みを進めます。

フードバンクやフードドライブに取り組んでいます ～3,193kg の食品を提供できました～

コープあいづでは、コープ東北が設立した「コープフードバンク」に参加し、会津地域の社会福祉協議会や子ども食堂などで活用していただいています。

コープフードバンクでは、流通に出すことができない食品を企業などから寄贈していただき、必要としている施設や団体、困窮世帯などに無償で提供する活動を行っています。このことで、食品ロスを減らす事にもつながっています。



2023 年度は、フードバンクとフードドライブで 3, 193kg（前年比約 90%）の食料品を提供する事ができました。新型コロナウイルス感染拡大によって、収入が少なくなってしまった方も多くあり、必要とされる方は増えているとお聞きしています。

フードバンクでは、2, 164kg（前年度対比約 83%）の食品を提供しました。賞味期限が一カ月というものもありましたが、子ども食堂のフードパントリーなどにも使っていただきました。

フードドライブは、店舗で年３回、宅配で年１回、年間で４回取り組み、提供重量は 1, 029kg（前年度対比約 108%）と増えました。コープあいづのフードドライブは、お店や宅配で購入していただいた商品を、その場で寄付することとしています。通常のフードドライブは、ご家庭などで過剰となった商品を寄付するものですが、食品の安全確保と賞味期限が長い商品をお届けするために、購入頂いた商品をお渡ししています。社会福祉協議会様からは、ストックしておけ、必要な時に活用できてたいへん助か

るとの声を頂いています。

また、コープあいづでは、こども食堂への支援として、会津若松市で２ヶ所、喜多方市で２ヶ所、会津美里町で１ヶ所に食材などの提供をしており、深刻化する貧困問題を地域の皆さんと一緒になって考えていこうと思っています。

＜フードドライブとは＞
一般家庭にある食品を学校や職場、グループ等、様々な機関・団体が拠点となり食品を集め、集まった食品をフードバンク団体や福祉施設等に寄付する運動のことです。
コープあいづでは、消費期限や異物混入のリスクを避けるため、家庭からの商品を集めるのではなく、お店で購入いただいたカップ麺などを寄付していただき、社会福祉協議会を通じて必要とされる方に活用いただいています。

誰もが安心してくらし続けられる地域社会づくり

私たちは、誰一人取り残さず、安心してくらし続けられる地域社会づくりに参加する為、自治体や諸団体との連携を大切にしつつ、地域の見守り、移動販売など、生協の事業や活動を活用し、地域における役割を果たしていきます。

行政や地域の方々と一緒にすすめる環境保全活動

行政の会議等に委員として出席しています

コープあいづでは、福島県が主催する「地球にやさしい“ふくしま” 県民会議　会津地方会議」の委員として参加しています。

会津若松市の、「会津若松市３Ｒ運動推進会議」の構成団体として参加しています。

「ふくしまゼロカーボン宣言事業」の取り組みに参加しています

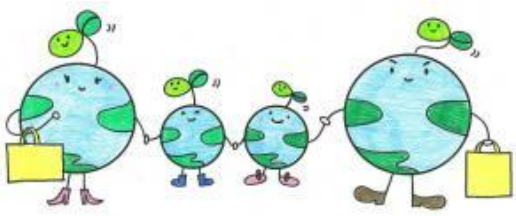
コープあいづでは、福島県が行っている「ふくしまゼロカーボン宣言事業（事業所版）」に参加し、２０５０年までの脱炭素社会の実現に向けて、「ゼロカーボン」を目指し取り組むことを宣言し、取り組みを進めています。

2023 年度は、ふくしまゼロカーボンへの挑戦表彰制度（事業所版） 最優秀賞を頂きました。

今後も、この事業に参加し、福島県が目指す「カーボンニュートラル」実現に向けて努力をしていきます。

福島県が推進している「ストップ・ザ・レジ袋実施店」に登録しています

福島県では、環境に配慮した持続可能な社会の実現に向け、この「レジ袋無料配布中止」の取組みをさらに促進していくため、地球にやさしい“ふくしま”「ストップ・ザ・レジ袋実施店」参加登録制度を実施しており、コープあいづの全店舗が参加しています。



福島県「食べ残しゼロ協力店・事業所」に参加しています

福島県が進める「もったいない！食べ残しゼロ推進運動」に協力する食品小売店として登録し、「閉店間際等の値引き販売」「ばら売り、量り売り、少量パックによる販売」「賞味期限・消費期限が近い商品の値引き販売」「野菜や魚、肉など、少量を希望される方には、カット販売のサービス、少量パックの提供などにも応じる」「業界の１／３ルールに該当しそうな商品も仕入れ、低価格で提供を行っている」などの取り組みを行っています。

※現在、新型コロナウイルス感染予防の為、ばら売りは中止しています。また、各店舗では、廃棄ロス削減の取り組みを行っています。

「あいづわかまつエコ事業所」に登録して環境保全活動に取り組んでいます

会津若松市では、、先人が残してくれた豊かな自然を守りつつ、環境への負荷が少ない持続的な発展が可能なまちを作っていく必要があるとし、会津若松市の「第２期環境基本計画」に定めた「事業者の環境配慮指針」のうち、10 項目以上に取り組んでいることが条件として、審査によって「あいづわかまつエコ事業所」を認定しています。

コープあいづでは、2014 年より「あいづわかまつエコ事業所」に認定されています。 http://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2014121000045/

市環境ＰＲ大使の「いいもりん」

電気自動車普通充電器を設置しています

にいでら店（会津若松市）にて、電気自動車充電器（普通充電器）を設置し、電気自動車を利用される方への充電にご利用いただいています。

ＥＶ自動車充電器設置の目的は、次世代自動車普及促進により地球温暖化ガスの発生抑制に寄与することでの社会貢献と、組合員さんの利便性向上です。お買い物ついでの、ちょい足し充電として利用いただきたいと思います。

組合員さんと一緒にすすめる環境保全活動

コープあいづの分野別委員会の一つとして「環境委員会」があり、組合員さんが自主的な活動として、エコ料理教室、大気測定（NO_2）や水質検査、清掃活動などのボランティア活動、会津若松市で開催されている「環境フェスティバル」への参加など、幅広い活動に取り組んでいます。

環境フェスティバル in あいづ

会津若松市主催の環境フェスティバルは、新型コロナ感染症の位置づけが変更となり、通常開催となりました。

環境委員会では、実行委員会にも所属し、ブース参加をしています。

展示ブースでは環境委員会の取り組み内容パネルの展示、「エコチャレンジシート」の記入お願い、「牛乳パックで作る小物入れ」を作るコーナー、コープのエシカル商品コーナーを設置しました。

コープあいづエコライフチャレンジ

家庭での省エネを進めるために、環境委員会で「エコチャレンジシート」を作成し、取り組みを進めました。

2023 年度は、環境フェスティバル、店頭で参加を呼びかけるなどして、941 名分の回収ができました。

施設見学会：会津電力雄国発電所の見学

環境委員会では、委員会のメンバーの学習のための施設見学を行っています。

2023 年度は、会津電力雄国発電所の見学をし、太陽光発電システムや再生可能エネルギーについて学びました。また、会津エナジーの国奥専務にも参加いただき、新電力のことや供給している電源についてのお話を伺いました。

ペットボトルのキャップの回収を行っています　652kg

環境委員会では、各所（にいでら店・本部などの回収 BOX）や各店の内部職員が集めたペットボトルキャップをごみや汚れがひどいものなどを取り除き、再利用できるように段ボールに詰め替えて運びます。まだまだ、ゴミや缶なども混ざっていて取り除くのに時間がかかりました。

回収したペットボトルのキャップは、荒川産業株式会社「アマルク会津一ノ堰」へ運び、荒川産業様を通じてプラスチック原料として売却され「特定非営利活動法人 世界の子どもにワクチンを 日本委員会」に寄付しています。

2023 年度は、全体で約 652kg のキャップが集まりました。ペットボトルキャップ３kg（約 1,300 個）でポリオワクチン１人分と計算されますので今回は約 217 人分になりました。

大気測定（NO2）に取り組んでいます

境委員会では、大気汚染の原因となる、NO_2の調査に取り組んでいます。

2023 年度の調査は、３回実施しました。

サスティナブルな取り組み

子育てを応援する取り組み

子育て広場「ココたん」

「ココたん」は、子育て中のお母さんが気軽に集まれる居場所で、孤立しがちなお母さんたちのネットワーク作りをお手伝いする場として、にいでら店で開催。対象は、０～３歳（未就学児）とそのママさん。コロナ禍以降は、子育て中のお母さん同士の情報交換や会話を中心に、短時間で終了する「ミニココたん」を中心に開催しています。

今回は初めての試みとして、「ココたんママヨガ」を開催。９組１９名(親子)が参加しました。会津若松市ふれあいハウスを会場に成田あかり先生を講師に、簡単なストレッチから本格的なヨガまで、1時間みっちり教えていただきました。参加した皆さんからは「ヨガは初めてでしたが、とっても楽しかったです」「ココたんという素敵な場所を知れて良かった」「同じ子育て中のママとの出会いがあり、話せて嬉しい」と喜んでいただきました。

それ以外に、「ミニココたん・十五夜飾りを作ろう」、「ミニココたん・クリスマス会」を開催しました。

「ココたん」は、子育て中のママさんの不安の軽減や、ネットワークづくりに貢献しています。

おゆずり会

子ども服は、すぐに着られなくなってしまいます。もったいないので、それを集めて「おゆずり会」を行っています。集まった子ども服は、無料で欲しい方に持って行って頂いています。

今年度は、ばんげ店とあいおい店で開催された「ミニ生協まつり」、映画「夢みる小学校」の上映会で行われ、多くの方に提供できました。

すくすくばこ

福島県内の新生児誕生をお祝いし、」その記念として思い出をしまっておける「すくすくばこ」を無料でお届けしています。箱の中には、趣旨に賛同した協賛企業様から頂いた育児グッズなどが入っています。

2023 年度は、618 件もの問い合わせがあり、「すくすくばこ」をお届けしました。

会津のお子さんが、すくすくと成長していただくことを願っています。

「すくすくばこ」の案内は、行政の窓口などにもあり、コープあいづの店舗などでも案内しています。

https://fukushima.sukusukubako.jp/

安心してくらせる地域づくり

各自治体と協力して行う「地域見守りの取り組み」

車に貼ってあるステッカー

地域や社会から孤立した状態で高齢者が死亡する「孤立（独）死」が社会的問題となっています。また、高齢者以外にも地域住民が安心して生活が継続できるようにしなければなりません。

コープあいづでは、会津地域で１５市町村と「地域見守り」に関する協定を結んでいます。コープあいづの宅配を中心とした各種配達業務機能を活用し、県や各自治体などと連携しながら「地域のみんなで見守る体制づくり」に協力しています。

取り組みとしては、配達担当者が組合員宅を訪問した際に、いつもと違う気になる事や異変に気付いた場合は、所属長（または代務者）に連絡し、緊急事態の際は、担当者が直接警察や消防、救急を呼ぶ場合もあります。

2023 年度は、７件の事例があり残念な事例も２件ありましたが、無事が確認できたり、救急車を呼び大事に至らなかった事例もあり、ご家族や区長さんから感謝のお言葉を頂くこともありました。

未締結市町村が３市町村ありますので、全世帯と締結できるようにしていきたいと思います。

□締結市町村

会津若松市、喜多方市、磐梯町、只見町、会津美里町、下郷町、猪苗代町、西会津町、南会津町
三島町、金山町、湯川村、檜枝岐村、北塩原村

□見守りの事例

組合員宅敷地に駐車すると玄関先に横たわっている高齢の組合員さんがいました。声をかけると玄関先で転んでしまって立てない状態でした。起こしてあげ肩を貸して布団のところまで運んで横にしてあげました。組合員も横になると楽になったのか「何かあったら救急車を呼ぶから大丈夫だよ！忙しいのにありがとう」と言われ緊急性がなかったため、配達した商品をしまってあげ現場を後にしました。

後程、組合員さんからセンターへ入電があり「忙しいのに足止めしてしまってごめんなさい。痛みも取れて歩けるようになったから大丈夫だよって〇〇さんに伝えてください」とお礼の言葉をいただきました。

こども食堂への支援

会津地域の４つの子ども食堂に、食材の一部を提供しています。

2023 年度は、新型コロナ感染症拡大の影響もあり、活動を休止している子ども食堂やフードパントリーに切り替えている子ども食堂もあり、提供は少なくなっています。

2024 年度は、活動を再開していく子ども食堂も増えており、お役立ちできるものと思います。

フードバンク、フードドライブ

＜コープ東北：コープフードバンク＞

フードバンクは品質には何ら問題のないものの、やむなく廃棄されてしまう食品を無償で提供を受け、支援を必要とする福祉分野の施設・団体に必要な食品を寄贈し、食べられる食品を有効に活用する活動です。

コープフードバンクでは、お取引先などから余剰商品の無償提供を受け、社会福祉協議会様などを通じて活用していただき、食品の無駄をなくすとともに、誰でも安心してくらせる地域づくりを目指しています。

2023 年度は、提供企業・団体様は 158 団体、法人企業・団体様は 81 団体となりました。

企業などからの受け入れ量は 93.5t、施設団体への提供量は 1,101t となりました。

会津地域では、社会福祉協議会様や子ども食堂様などへ 2,234 点（2,164kg）を提供することができました。

＜フードドライブ＞

フードドライブは、ご家庭などでの余剰食品などを提供する取り組みですが、コープあいづの行う「フードドライブ」は、提供する食品の安全性の確保や消費期限の長いものをお届けするため、お店や宅配で購入していただいた食品をお渡ししています。

また、お店で行うフードドライブは、社会福祉協議会の方やボランティアの方とも一緒に取り組んでおり、6,169 点（1,029kg）をお届けすることができました。

宅配センターの安全運転意識を高めるために

コープあいづでは、安全意識を高めるために優良ドライバーが乗車する「チャンピオンカー」を 24 年度 5 月より稼働させています。

チャンピオンカーとは、21 年から取り入れているドライブレコーダー・テレマティクスサービス「Fードラ」の月度判定基準から 1 位に輝いた優良ドライバー「セーフティーチャンピオン」が乗車し、地域の安全パトロールや一般道でのペースカーの役割を担う目的で安全運転を意識した走行をします。

これからも安全運転の意識を高めるために大会の参加や安全教育にイベント性を持たすことで相乗効果を生み出し、より安全意識の向上を見込みます。

今後も組織全体で地域にやさしい運転「安心・安全」を心がけていきます。

社会福祉の向上

こ～ぷ暮らしのたすけあいの会

こ～ぷ暮らしのたすけあいの会の総会を開催し、オカリナグループ「フォルテシモ」の皆さんによるオカリナ演奏を聴き、「熱塩加納　元気節体操」を会場の全員で踊りました。会員数は現在 92 名です。

「会員のつどい」を開催し、「生き生きと健康で過ごすために」というテーマで、喜多方市の地域包括推進室の笹川さんにお話して頂きました。

活動内容を広く紹介し、生活のちょっとしたお手伝いが必要な方や援助する方を増やすために、「お茶っこの会」をばんげ店としおかわ店で開催し会員募集活動を行いました。

「こ～ぷ暮らしのたすけあいの会」の活動は、行政サービスでは手が届かない、家事手伝いや掃除、草むしりなどのちょっとしたお互いの助け合いの活動です。

昨年度の活動時間は 90.5h（前年比約 135%）となり、活動は増えています。課題としては、援助会員を増やすことです。

誰も取り残さないお買物

移動販売

会津地域では、高齢化・過疎化が進んでおり、高齢で一人暮らしの方、交通手段が無くて買い物に困っている組合員さんが多くいらっしゃいます。

コープあいづでは、宅配事業を行っており、その一助となっていますが、「お店のように商品を見て買い物したい」という声や、宅配事業にはない「お刺身」「お総菜」などが欲しいといった要望も高く、冷蔵設備もある移動販売車を利用して、移動販売を行っています。

現在、2ｔ車クラスの車両 2 台に加え、軽自動車 2 台の合計 4 台の移動販売車を利用し、週に 24 コースの移動販売を稼働させています。

要望が高く、移動販売車が止まるポイント数が増えており、４月１日現在では 406 ポイント数となっています。

移動販売は、商品を販売するだけではなく、いつもの方が来ていないと心配になったり、順番を待つ間での井戸端会議もはずみ、見守りや交流の場としても有意義な場となっています。

ＥＭＳ：環境目標の達成状況

【方針1関連】

部署	目的目標		目　標	実　績	結果
全体	事業から排出するＣＯ2 の排出量を　前年より１％以上削減する（1,361t 以下にする。（前年比-1%）		1,361t	1,117t	○
店舗	人時生産性を店舗全体で 2,753 円にする。	全体	2,753 円	2,760 円	×
		ひがし店	3,302 円	3,205 円	×
		ぷらざ店	2,187 円	1,742 円	×
		ばんげ店	2,696 円	2,624 円	×
		しおかわ店	2,351 円	2,465 円	○
		にいでら店	2,540 円	2,266 円	×
		とねがわ店	2,660 円	2,407 円	×
		ほんまち店	2,598 円	2,292 円	×
		あいおい店	2,631 円	2,460 円	×

【方針2関連】

部署	目的目標	目　標	実　績	結果
管理本部	長時間労働を削減する。 ①月 45H超残業を年間 80 件以下にする(2022 年度 101 件) ②法定休日違反　　発生させない(2022 年度 5 件)	① 80 件	144 件	×
		② 0 件	0 件	○
	労災の発生を年間 10 件以下にする（2019 年度 13 件）	10 件	19 件	○
	有給休暇取得５日以上　１００％	100%	100%	○
ＤＣ燃料	配送。品揃えミスを０（ゼロ）にする。	0 件	5 件	×
共同購入	宅配事業の利用者人数を 514,840 人以上にする。	514,840 人	516,312 人	○

【方針３関連】

部署	目的目標		目　標	実　績	結果
店舗	廃棄ロスの削減。店舗全体の廃棄ロス率を-0.60％以下に抑制する。 ※商品部も同じ目標を設定して取り組む。	全体	-0.60%	-0.65%	×
		ひがし店	-0.68%	-0.68%	○
		ぷらざ店	-0.95%	-1.28%	×
		ばんげ店	-0.55%	-0.49%	○
		しおかわ店	-0.53%	-0.65%	×
		にいでら店	-0.51%	-0.60%	×
		とねがわ店	-0.75%	-0.77%	×
		ほんまち店	-0.58%	-0.66%	×
		あいおい店	-0.53%	-0.46%	○
	食品リサイクル率を 2021 年度より 2%以上向上させる。年度末目標値 47.1％（2021 年度 45.1％,2022 年度	全体	41.4%	32.5%	×
		ひがし店	38.6%	35.6%	×
		ぷらざ店	35.7%	29.0%	×
		ばんげ店	49.1%	39.5%	×
		しおかわ店	33.5%	32.7%	×

	39.1%）	にいでら店	62.8%	57.4%	×
		とねがわ店	39.3%	39.8%	○
		ほんまち店	59.6%	49.3%	×
		あいおい店	53.2%	60.2%	○

【方針４関連】

部署	目的目標	目　標	実　績	結果
商品部	年間ＧＰを 23.6%にする。	24.4%	24.0%	×
	ＣＯＯＰ商品の普及 拡大供給金額 40 億円(2019 年度比 120%目標)	332,516,451 円	347,826,815 円	○

【方針５関連】

部署	目的目標	目　標	実　績	結果
組活	一日エコライフの参加者を 1,200 名以上にする。	1,200 人	941 人	×

ＥＭＳ：環境関連法の遵守状況

主な法規	対象となる施設及び要求事項	順守状況（2024 年 2 月調査）
消防法	・事業所の防火対象物の定期点検報告。 ・防火管理者の設置。 ・灯油・軽油・ガソリン等の危険物貯蔵及び管理者。	・危険物貯蔵及び取り扱い管理については問題なし。 ・防火管理者、危険物保安監督者の設置を確認。 ・施設の防火対策は、消防署の立ち合い検査を受け、問題がない事を確認。
浄化槽法	・年１回指定検査機関による法定検査。（第 11 条） ・法定に基づく保守点検及び清掃。	・点検及び清掃の実施。 ・2023 年度の法定点検はすべて終了。法定基準を超えるものはない。 ・本部は単独式浄化槽なので改善が必要。
下水道法	・排出水質基準の順守。 ・排出事故時緊急措置及び届出。	・水質基準で問題なし。 ・排水事故等は起きていない。
水質汚濁防止法	・河川等への油流失による汚染	・事故の発生なし
騒音・ 振動規制法	・指定区域内の特定施設の設置の届出。（冷凍機及び空気圧縮機の出力 7.5kw 以上の設備）	・届け出の維持確認済。 ・騒音振動の苦情発生なし。
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・一般廃棄物、産業廃棄物の委託業者との契約。 ・廃棄物の保管、管理。 マニフェストの発行と管理	・マニフェスト管理で、引き続き電子マニフェスト化を進めた。 ・定期的な処分に関しては全て電子化。

エネルギーの使用の合理化に関する法律	・エネルギー管理統括責任者及びエネルギー管理企画推進者の選任 ・中長期計画の策定。 ・定期報告の実施。	・エネルギー管理統括責任者及びエネルギー管理統括責任者及びエネルギー管理企画推進の選任届の実施。 ・中長期計画及び定期報告の実施。 ・管理標準を作成し、エネルギー管理を実施。 ・2023 年度、Ａランク評価。
食品リサイクル法	・再生利用等の実施及び目標の設定。2024年度（令和6年度）までに食品小売業は 60%。 ・定期報告義務。	・2023年度分は2024年6月までに報告予定。 ・2023 年度の再資源化は 32.5%、前年より 4.1%低下している。 ※法が要求している水準に達していないどころか、低下傾向。 ・ＥＭＳ目標に設定し、進捗管理を今日活かしていく事が必要。
容器包装 リサイクル法	・使用量に応じたリサイクル義務。 ・排出抑制義務（店頭回収の促進、レジ袋の削減）及び報告義務。	・容器包装の使用量は、86,315 kg。前年比約 87%と削減ができた。 ・トレーの店頭回収は、7,464 kg（発泡トレー4,686 kg、透明トレー2,778 kg）。前年比約 109%と前年より増加。 ・レジ袋削減の取り組みは、持参率 89.1%と前年と同じ。 ・遵法上の手続き 委託契約は、2024 年 2 月に実施済。 定期報告は、2024 年 6 月に報告予定。
資源有効利用促進法	・分別回収のための表示義務	・ＰＢ商品は、メーカー点検で実施。問題ないことを確認した。
フロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律	・フロン引渡しにおいては「委託確認書」の交付と「引取証明書」による引渡し終了の確認。	・フロンの漏えい量の把握、ＣＯ2 排出量換算で 638 トン-CO_2。前年比約 50%の削減。 ＊1,000 ㌧以下となり、報告不要。 ・今後、老朽化した冷凍冷蔵ケースの買い替えを早急に進めていく事が必要。
会津若松市、喜多方市におけるレジ袋削減に向けた取り組みに関する協定	・マイバッグ、マイバスケットの持参の呼びかけ。 ・マイバッグ、マイバスケットの販売。レジ袋の辞退数、マイバッグ、マイバスケット持参率など削減状況を市に報告。 ・レジ袋の無料配布の取りやめ。	・会津若松市、喜多方市への定期報告の実施。 ・会津若松市と、「レジ袋削減協定」を締結中。 ・福島県とは、「ストップ・ザ・レジ袋実施店」に登録。 ・毎月８日と９日は、福島県の「マイバッグデー」として、店内放送での啓蒙活動を行っている。
福島県におけるレジ袋の削減に関する協定	・マイバッグ等の持参を呼びかけ、レジ袋の削減の取り組みの推進。	・レジ袋辞退率は 89.1%（前年比 100%）。

PCB 処理特別措置法	・PCB 廃棄物の届出・保管	・本部とＤＣの蛍光灯安定器を調査した結果、本部に高濃度ＰＣＢが含まれているものが 35 台（150.5kg）、ＤＣより微量ＰＣＢを含む可能性があるものが 100 台（465.4kg）見つかった。 ・高濃度ＰＣＢは、処理済。 ・県への届け出及び、処分の契約を行った。

ＥＭＳ：内部環境監査

１．監査の目的

2022 年度の内部環境監査の結果を踏まえ、各事業所でどのような環境保全活動の活動が進められ、改善が進んでいるか内部環境監査を実施しました。

１）監査の目的

・ コープあいづのマネジメントシステムが、組織の定めたマニュアルに沿って適切に実施され、その運用や改善が向上する取り組みなっているかを評価判定する。
・ 計画された実施計画が実行されているかを点検する。計画が達成していない時には、改善の為の具体的な対策が検討され、実施されているかを点検する。
・ 法令順守の状況及び、各種の監視測定（点検・評価）の状況が把握され、評価が行われ、問題が生じたり、その危険性がある場合に対する改善の取り組みが行われているか評価する。
・ 事故や重大な過失、不正につながる内部統制の機能上の問題点がないか確認する。＊重点リスクへの対応（リスクコントロール）
・

２）監査の重点

・ ＥＭＳ目標の進捗確認
  - ➢ 目標達成の為の手段は明確になっているか。
  - ➢ 目標達成の為の活動が、有効な手段で全員が参加して行われているか。
  - ➢ 目標未達成の場合には、具体的で適切な改善策が取られ、ＰＤＣＡが回されているか。
・ 順法状況の確認
  - ➢ 改正省エネ法、改正フロン法、消防法、食品リサイクル法、個人情報保護法、食品衛生法、労働安全衛生法、下請法、景品表示法、著作権法、等
・ 内部統制の状況
  - ➢ 個人情報管理において、個人情報の特定と管理が確実にされているか確認する。
  - ➢ セキュリティ対策として、パソコンのログイン時のパスワード管理について確認する。

２．対象部門

コープあいづの計１８サイトを監査しました。＊システムを含む

・ 本部（役員室、組活）、管理本部、店舗企画運営部、商品部、開発室、生活事業部、品質管理室

・ 店舗：ひがし店、ぷらざ店、ばんげ店、しおかわ店、にいでら店、とねがわ店、ほんまち
あいおい店
・ 共同購入センター（共同購入、燃料課）
・ ＤＣ燃料課
・ システム（環境事務局）

３．実施期間
・ ９月２９日（金）～１０月１３日（金）＊１サイト２時間を目安に実施。

４．監査方法
・ 監査員２人以上でチームを編成し、チェックリストを用いて実施しました。
・ 監査員の都合がつかず、１名で実施した事業所もあります。

５．監査員
・理事長から指名された１７名

６．監査結果
１）監査の目的に対する結果
2022 年度内部環境監査の結果を踏まえ、各事業所でどのような環境保全活動の活動や内部統制に関わる管理について、改善が進んでいるか内部環境監査を実施しました。
環境マネジメントの運用では、システム的な不適合はなく、各事業所で活動がされていました。
しかしながら、昨年度同様 ISO14001 からの運用が継続されており、やや形骸化したところが見られ、進捗報告書が十分に活用されていない、運用管理項目の意味や意義が理解されてないところがみられます。
また、システムを少しでも軽くするように改善は行われていますが、環境マネジメントマニュアルはページ数も多く、専門用語も残っており、事務局でしか理解されていない内容もあります。
簡易で現場の責任者が分かりやすい仕組みへの更新が課題となっています。

今年度、不適合Ｂが３件あります。遵法で２件、個人情報で１件。その内２件は前年度からの改善が出来ていないことからの指摘です。１件は表示に関する指摘で、表示法違反になります。大事な問題だったので、監査会議でも情報共有しました。

目的目標に関しては、店長会議の報告できちんと報告されていたり、チーフへの指示などはされていますが、事業所の全職員への周知の面ではまだ弱く、全員の活動とはなりきれていません。「廃棄ロス削減」などは事業目標でもあるため、日常管理項目として活動する事が必要です。
また、未達成項目に対する取り組みは、昨年度より前進していますが、目標に見合う改善には至っていません。改善傾向であっても、目標達成に向けて原因の追求と目標に見合った具体的な是正処置が確実に進むよう、ＰＤＣＡを回すマネジメントスタイルの実施が必要です。

法規制への対応は、消防訓練の実施に関しては改善が進んでいますが、改正フロン法の簡易点検は、実施時期が過ぎていたり、報告書の記載が不十分なところがあります。進捗報告書で実施月は明確になっていますが、法規制の欄が十分活用されていないことや、遵法の重要性に対する認識の弱さなどから、実施がされなかったり遅れていたりしています。事業の年間計画や月間計画に遵法に関する計画も加え、管理していく事が必要です。

また、個人情報保護に関しては、昨年も個人情報の洗い出しが不十分で整理ができていないとの指摘がされ、今年度も改善がされていません。個人情報保護に関しては、ほとんどの生協が重大リスクとしてとらえ、内部統制に関する重要管理項目としています。今回、事務局も明確にされましたので、マニュアルの見直しも含め整理頂き、実際の運用がされるようにしてください。

今回の監査では十分に行えていませんが、下請法のリスクも高まっている事から、順守内容を明らかにし、管理者への教育を実施する事が必要と考えます。

遵法に関しては、役員室、管理本部、商品部など、個別に情報を収集し行っていますが、抜け漏れがないよう、遵法主管部局を明らかにし、情報収集及び監査の実施を検討する事も今後は必要になってくると思われます。

リスク対応では、昨年と比較すると震災や災害に対する対応手順の理解が進んでいます。しかしながら、震災対応マニュアルの見直しや、災害時の対応ではコープ東北のものがありますが、コープあいづ独自のＢＣＰマニュアルや災害対タイムラインなどの整備が遅れています。

地球温暖化が進む、災害リスクが高くなっています。災害が発生する前に環境整備をすることが必要だと思います。

業務の効率性では、必要書類の確認は進んでいますが、今年度の課題となっていた「統一ファイル」の運用がされていません。次年度からは運用ができるよう、具体的な改善を図ってください。

今回の監査でも良い事例も見出せました。

ぷらざ店では、タイムカードのところに「売上日報」を掲示し、達成状況に〇×をつけてパートさんやアルバイトにもわかるようにしています。チーフ不在の部門もあるための工夫です。にいでら店では、部門のバックヤードに「２０２３年度目標」①廃棄ロス率②食品リサイクル率③人時生産性が掲示され目標の共有化がされています。

昨年度、ばんげ店で同じような事例が報告され、横展開が広がってきています。

宅配センターでは、利用人数を達成するための手順が明確にされ、単月の目標で未達成だった数字を上乗せし計画を修正され、年間計画に向けての取り組みがされています。毎月の計画達成だけではなく、ターゲットは年間計画の達成なので、年間計画が全員に理解され、それに向けての活動がされています。

監査会議でもまとめの発言がありましたが、良い事例をお互いに学び、全体の改善につなげていく事が大事だと思います。

結論としては、ＥＭＳ（環境マネジメントシステム）は概ね構築されていると判断しますが、マネジメントシステムが形骸化しないよう、仕事に役立つものとして活用していけるよう、仕組みの簡略化や

活動の見える化、進捗報告書などの活用など、見直しが必要だと思います。

２） 監査で気づいた改善点（所見数）＊（ ）内は、昨年の数値

・ 所見総数：４９件（５０）
・ 不適合Ｂ：３件（2）、観察：３０件（３０）、推奨：４件（6）、プラス：１０件（１０）
・ その他：２件（0）
・ 所見なし：２件

７．付記事項

この間の監査で、店長の引継ぎなどで申し送りが漏れていたり、資料が確実に引き継がれておらず、遵法上の記録が見当たらないなどの指摘がでます。ＥＭＳだけではなく、業務全体の「引き継ぎリスト」のようなものを作成し、確実な引継ぎができるような改善が図られると良いと思います。

今回の監査では、店長や事業所や部局の責任者の方に監査員になって頂きました。特に全店舗の店長が参加し、お互いに監査を受けたり実施したりすることで、できていないことを改めて確認することができました。さらに横展開も進むものと思います。

ＥＭＳ：環境データ

１．使用量

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	前年比
エネルギー	電気使用量(kwh)	9,370,712	9,150,698	8,735,665	8,253,925	8,124,937	98.4%
	LPG使用量（m3）	83,080	79,000	74,819	64,047	65,030	101.5%
	灯油使用量（L）	7,013	30,855	34,603	17,967	19,375	107.8%
	軽油(L)	97,822	128,043	114,078	118,544	108,732	91.7%
	ガソリン(L)	22,821	19,791	19,891	23,973	38,552	160.8%
資源	水道使用量（m3）	43,116	38,598	38,445	37,153	38,099	102.5%
	紙　合計(kg)	362,644	339,811	370,827	368,443	420,953	114.3%
	商品案内	286,400	270,240	293,520	298,240	286,220	96.0%
	チラシ	61,134	55,821	59,099	53,812	45,976	85.4%
	POP用紙	5,962	4,831	7,880	5,919	4,653	78.6%
	コピー用紙	9,148	8,919	10,328	10,472	11,283	107.7%
	プラ容器(kg)	93,312	91,208	79,076	81,533	69,546	85.3%
	プラ包装kg)	22,031	154,412	20,220	21,325	15,511	72.7%
	紙　容器(kg)	793	589	442	776	205	26.5%
	紙　包装(kg)	1,261	335	607	278	797	286.8%
	PETボトル	441	396	678	340	255	74.9%

・ 店舗で、天井照明の消灯やショーケースの照明の一部消灯などの省エネ営業を行い、削減ができました。
・ 営業活動が増え、ガソリンの使用量が増えました。
・ ひがし店で、スロープの融雪ボイラーの使用が増え、ＬＰＧの使用量が増えました。
・ ほんまち店で、融雪ボイラーの使用によって灯油の使用量が増えました。
・ 宅配の事業拡大によって商品案内の重量が増加しました。

２．ＣＯ2 排出量

	2013年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	前年比	
電気	5,353	4,882	4,768	3,992	2,608	2,470	-138	95%
灯油	140	34	34	86	45	48	4	108%
ＬＰＧ	571	249	506	224	192	195	3	102%
ガソリン	58	53	53	46	60	90	29	149%
軽油	274	256	252	299	311	285	-26	92%
ＣＯ2排出量	6,396	5,475	5,613	4,648	3,216	3,088	-128	96.0%
2013年度比		85.6%	87.8%	72.7%	50.3%	48.3%		

・ 電気は、省エネが進んだことと電気の調達の排出係数が低くなったことで、削減ができています。

３．リサイクル量

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	前年比
牛乳パック(kg)	7,778	8,970	9,292	8,454	8,500	101%
発泡トレー(kg)	5,475	4,794	4,580	4,419	4,686	106%
透明トレー(kg)	2,436	2,174	2,318	2,434	2,778	114%
発泡容器(kg)	25,618	40,970	41,780	41,860	41,970	100%
内袋(kg)	2,080	2,000	2,080	2,270	2,080	92%
商品案内(kg)	312,010	300,080	308,630	297,550	276,430	93%
食品残さ(kg)	182,583	164,122	159,992	146,090	136,575	93%
廃食油(kg)	13,503	13,412	11,200	7,132	9,225	129%
エコステ(kg)	36,030	37,090	15,980	18,740	20,540	110%

４．レジ袋辞退率

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	前年比
使用重量(kg)	4,127	3,574	3,430	3,139	3,385	108%
レジ袋辞退率	87.7%	89.7%	89.3%	89.1%	89.1%	100%

５．食品リサイクル率

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前年比
食品残渣総量 (kg)	380,735	372,416	361,962	352,081	333,389	94.7%
リサイクル量 (kg)	182,583	164,122	159,992	168,458	136,575	81.1%
リサイクル率	48.0%	44.1%	44.2%	47.8%	41.0%	85.6%

６．商品案内配布量、回収率

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	前年比
配布量kg	310,642	297,367	309,120	298,240	286,220	96%
回収量(kg)	312,010	300,080	308,630	297,550	276,430	93%
回収率	100.4%	100.9%	99.8%	99.8%	92.4%	93%

・ 担当者ニュースやセンター発行のチラシなどの重量が正確に把握できていない為、配布量の実績が少なくなり、回収率が 100%を超えている年があります。

７．産業廃棄物排出量

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	前年度比
安定型混合廃棄物	8,944	7,488	7,696	4,680	9,620	205.6%
汚泥（泥状のもの）	13,860	16,720	18,260	18,370	18,260	99.4%
下水汚泥	35,750	24,750	37,400	42,900	37,400	87.2%
発泡スチロール	12,659	12,499	41,780	41,860	41,970	100.3%
発泡ポリスチレン	62,400	60,000	2,080	2,000	2,080	104.0%
廃プラスチック（硬質）					600	
蛍光灯				10		0.0%
伐採材・伐根材			1,100		4,790	
廃PCB等				100	100	100.0%
合計	133,613	121,457	108,316	109,920	114,820	104.5%

- ＰＣＢ廃棄物（蛍光灯安定器）の処分行いました。
- コンテナなどの廃プラスチック類の処分を行いました。

８．環境会計

環境保全効果						
環境保全効果を表す指標					2023年度実績	2022年度との差
	事業活動に投入する資源に関する効果	エネルギーの投入	水光熱	電気(kWh)	8,124,937	−128,988
				ガス(m3)	65,030	983
				灯油(ℓ)	19,375	1,408
				水(m3)	38,099	946
			燃料	軽油(L)	108,732	−9,812
				ガソリン(L)	38,552	14,579
		エネルギー消費によるCO2(t)			3,088	1,655
		廃棄物の排出(kg)			391,491	−25,716
		廃棄物のリサイクル量	食品残さ、廃食油(kg)		136,575	−9,515
上・下流コストに対応する効果	事業活動から算出する財・サービスに関する効果	レジ袋使用重量			3,385	246
		回収リサイクル量(kg)	牛乳パック		8,500	46
			食品トレー		7,464	611
			商品案内		276,430	−21,120
			ビン		91	−175
			缶		190	−71
			PET		494	70

＊生産・サービス活動に伴って上流または下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト（廃製品・包装などのリサイクル、リユースおよびグリーン購入コストなど）

２０２３コープあいづ　環境報告書

この環境報告書は、2023 年度の活動をまとめて作成しています。

発行日　2024 年 5 月 10 日
対象期間　2023 年 3 月 21 日～2024 年 3 月 20 日
発行　生活協同組合コープあいづ
福島県喜多方市字二丁目 4669-2
お問合せ先　コープあいづ　役員室　新山敦司
TEL 0241-22-1041　FAX 0241-24-3504
Mail a_niiyama@coop-aizu.jp

※環境報告書は、コープあいづのＨＰでも公開しています。
カラーとなっていますので、ぜひご覧ください。
http://www.coop-aizu.jp/eco/2023_eco_report.pdf